

## 局長挨拶

— 開会の挨拶から —

平成23年度の業務・林業技術等発表会の開催に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、大変お忙しい中、こうして多数の方にお集まりいただきましたことを、まずをもって厚く御礼申し上げます。



この発表会は、今回で57回目を迎えることができました。このように長きにわたり開催することができたのは、一重に皆様方のご支援の賜と感謝申し上げます。

また、本日の開催に当たり、審査委員として、宇都宮大学名誉教授谷本先生、多摩森林科学園の吉丸園長、群馬県環境森林部林業振興課阿久沢課長様には、大変お忙しいなかご出席をいただき、厚く御礼申し上げますとともに、本日の審査及びご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、本年度は、森林・林業の再生に向けた改革を具体的に推進していく「改革元年」であり、その指針となる「森林・林業再生プラン」に基づき「施業の集約化」、「路網整備」、「必要な人材の育成」などを大きな柱として10年後の木材自給率50%を目指す改革が開始されています。

特に、この計画の推進を担うフォレスター等の人材育成については、本年度から研修が開始され、国有林の職員も、その技術力を活かしフォレスターとして、これまで以上に民有林関係者との連携が期待されることになりました。

このことは、我々が持っている「技術力」が民有林の方々に頼られる技術であるかが真に問われることだと思えます。

その中で、本日の発表の12課題の概要を拝見する限り、テーマは大変多岐に渡っており、それぞれが、日頃の業務の中で疑問に感じること、解決しなければならないことなどの提議を自ら行い、それに真摯に取り組んでいる姿勢が伺えます。また、多忙な業務の合間を縫って努力を重ねられ、本日を迎えられるのだらうと思えます。このような取り組みこそが民有林から頼られる技術力につながるものだと思います。

中でも、本日発表を行ってくれる若い職員にとって、このような場で発表を行う事は、様々な面で心の重荷になるかと思えます。しかし、このような

場で発表を行う事は、自らの研究内容の問題点をはっきりと認識し、技術力を向上させる良い機会であると思います。それ以上に、こういった場所で発表してくれることに、改めて感謝申し上げます。

今日と明日の発表会が成功裏に終了し、その成果をもって、我が国の森林・林業、木材産業の発展に繋がることができれば、今回の発表会は大変有意義なものになるのではないかと考えています。

改めまして、本発表会にご参加いただいた皆様に感謝申し上げますとともに、本日の発表の成果をもって、我が国の森林・林業、木材産業の発展に貢献できますことを祈念いたしまして開催に当たってのご挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

平成24年1月26日

関東森林管理局長 岡田 憲和